



奥能登曼荼羅再建部

奥能登曼荼羅再建プロジェクト

《奥能登曼荼羅》とは

《奥能登曼荼羅》は、金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム [スズプロ] が、2017年に制作したインスタレーション作品です。古民家の蔵（6m×9m×高さ6m）の内部には、少しずつ社会が変化しながら歴史や文化が積み重なり受け継がれた奥能登の姿が描かれ、自らが囲まれるようにして体感することができます。

壁画部分は奥能登地域の「絵地図」として読み解くことが可能で、地形や地域と対応するように歴史的・文化的な出来事や、生活の営み、環日本海地域を巡る「祭り」の伝播・継承の物語が網羅的に描かれています。公開当初から、**地域や文化の時間的変化や、伝承・物語の追加を想定しており、奥能登の変化と呼応するように曼荼羅図も描き加えていくことができる技法を用いています。**



奥能登に自生する植物や野鳥、祭りなどが描かれる。

沿革 ～《奥能登曼荼羅》と震災～

2017年 奥能登国際芸術祭2017

金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム [スズプロ] が「奥能登曼荼羅」を含む作品群《静かな海流をめぐって》を公開。以降、展示を継続し多くの方に鑑賞いただく。



2023年 地震（珠洲、震度6強）

展示会場の古民家が被災。安全確保が困難となり奥能登国際芸術祭2023での公開を断念。



2024年 令和6年能登半島地震（珠洲、震度6強）

旧展示会場や作品の保管してあった家屋が倒壊するも、3月19日に救出。



作品の移設を検討する中、能登半島地震により被災。奇跡的にほぼ全ての壁面の救出に成功した。

沿革 ～修復と再建準備～

- 2025年8月 本格的な修復活動の開始（1回目）
珠洲市フィールドワーク & 学生説明会
- 9月 奥能登曼荼羅再建部を設立
再建予定候補の建物を仮決定
- 12月 展示打ち合わせ
修復活動（2回目）
- （予定）
- 2月 修復活動（3回目）及び展示に向けた準備
- 3月 横浜そごう美術館にて展示



実際の修復作業の様子（令和6年12月）

最終目標

「奥能登曼荼羅」を修復し珠洲市内に再建、公開を行う。

公開後は、「奥能登曼荼羅」の図を更新するための加筆作業やそれに伴ったリサーチ活動などを、住民や学生と協力しながら行う。被災した作品を再建し更新するプロセスを通じて、コミュニティの拡張や関係人口の増加を狙い、地域の活性化へと繋げる。

また、大学との連携があることを活かし、大学生をはじめとした若者、研究者を呼び込むきっかけとなる学際的なアートプロジェクトとして運営していく。



なぜ《奥能登曼荼羅》なのか

・ 創造的復興への寄与

親しんでいた作品が再び街に戻ることにより、魅力と誇りをもった復興への機運を高める。

・ 教育的要素

本プロジェクトは金沢美術工芸大学有志の活動から派生したプロジェクトであり、学生が入れ替わりながらも活動を継続していくことを前提とした他にない仕組みづくりの構築。

・ 地域交流、学際的交流の可能性

社会学的調査法を参照し、フィールドワークを重視したリサーチを行っているため、アートを媒介にしつつも学問を横断した学際的な議論を喚起する可能性を持つ。

・ 生きたアーカイブとしての機能

奥能登の豊かな地形を土台としながら、動植物や暮らし、祭りの記憶が重層的に描かれることによる記録。



助成金の使途

・ リサーチや作品の修復活動

画材や和紙など修復に必要なものの購入費等

・ 継続的な活動に必要な資金

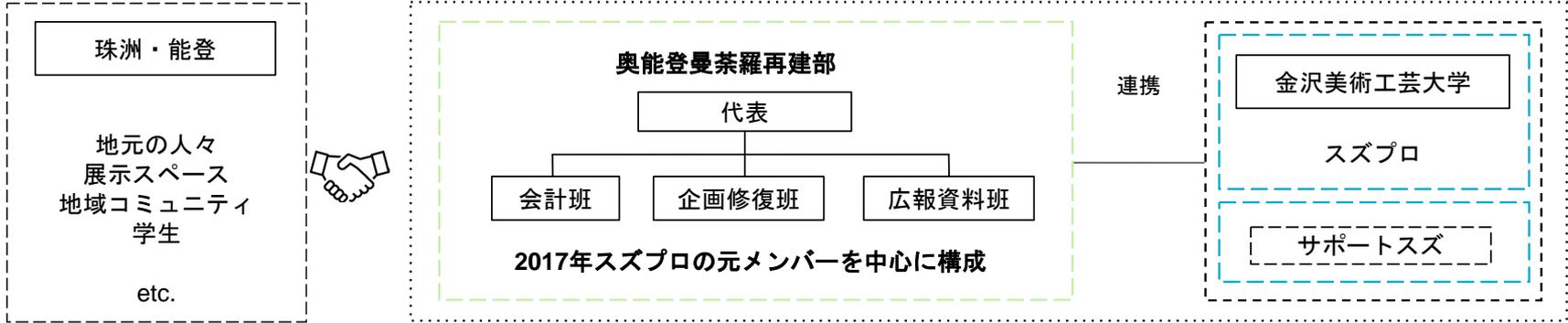
活動の中心となる珠洲市は金沢市からも高速バスで4時間ほどかかり、交通費や宿泊費などアクセスするための費用が必要となる。

・ 展示活動や支援者を広げる活動

SNSも活用しながら活動を周知し、作品の展示やプロジェクトに関する支援を呼びかける活動、クラウドファンディング等を行う。



事業体制



珠洲・能登
地域

再建部

金沢美大
スズプロ
サポートスズ



連携

金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム [スズプロ]

・ 共同での再建活動

再建候補地の清掃や破損した作品の修復活動など。

・ 現地のリサーチツアー

コロナ禍、震災以降珠洲市へ行く機会がなかった学生へ向けたツアー形式でのリサーチを企画。

・ 合同活動報告展示

長期プロジェクトの進捗を可視化しつつ、個人の関心によって地域と向き合うきっかけの創出を狙う。

一般社団法人 サポートスズ

・ スズレコードセンターの協力

震災後誕生した珠洲の記録（レコード）を集める活動を行う拠点。制作のための資料集めやリサーチの協力を依頼。

・ 現地活動でのサポート、ボランティア集め

芸術祭ボランティアのアテンド等を行っている団体であり、活動や作品メンテナンスの補助を依頼。



スズプロと合同での活動報告展示

(2027年2月予定)

奥能登タイフーン (仮) 企画案

- ・ 再建部、スズプロ各団体の成果報告展示
- ・ 両団体メンバーによる個人活動での作品展示及び販売（テーマ設定が必要、例「奥能登での体験をもとにした作品」など）
- ・ 他大学（金沢大学、法政大学、東京大学等）に呼びかけ、奥能登でのリサーチ活動のレポートや成果などの報告展示を依頼する。
- ・ イベント日を設け、各団体、学生等による発表の機会を設定する。（アーティスト・トークと学会発表を混ぜるようなイメージ）
- ・ 入場料100円程度（ポストカード付き）などの工夫で少しでも活動資金を集める。
- ・ 2026年度内に約3回の珠洲フィールドワークツアーを再建部主導で開催。（助成金を使用）



展示イメージ

「奥能登」といったキーワードによって他大学・団体のリサーチや活動報告も受け入れ、地域に関する理解を深めながら交流を行う。